



ADRC Highlights

Vol.111

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

1 March 2005

➤ 2004年度JICA防災行政管理者セミナーを実施、成功裡に終了

アジア防災センター（ADRC）では、独立行政法人国際協力機構（JICA）兵庫と協力し、2004年度で5回目となる「JICA 防災行政管理者セミナー」を2005年1月13日から2月18日までの37日間にわたり実施しました。今年度のJICAセミナー対象国は、ベニン、中国、コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、インド、マレーシア、パナマ、シリア、タンザニア、トルコの11カ国で、防災担当行政職員の研修員13名が参加しました。

当セミナーは、日本の防災体制をモデルケースとして学ぶことにより、自然災害による被害の軽減を目的に、次のような課目を取り入れました。(1)災害の基本概念、(2)日本政府による防災対策、(3)地方自治体による防災対策、(4)民間とマスコミの防災に果たす役割、(5)災害別対策事例、(6)国際防災協力、(7)テーマ別防災対策。



研修員は、まず自国の防災事情をカントリーレポートとして発表した後、関係省庁や防災機関を訪問し、防災に関する取組みについて包括的に学びました。日本政府による防災対策としては、内閣府防災担当、国土交通省、厚生労働省、気象庁、消防庁を訪問し、日本の災害対策の概要や災害時の応急対応、災害救助法や気象業務について講義を受けました。また、地方自治体の防災対策としては、兵庫県庁にある県災害対策センターや神戸市危機管理室および人と防災未来センターを訪問し、1995年の阪神・淡路大震災から得た貴重な教訓とその後の復興対策について説明を受け、質疑応答も多く交わされました。また、富士常葉大学の小川教授の指導のもと神戸市灘区でタウンウォッチングを行い、その後のハザードマップ作成とともに潜在的リスクに対してコミュニティレベルで防災意識を持つことの重要性を学びました。

また、神戸市内で開催されていた国連防災世界会議にも参加し、防災に関する国際社会の協力を直接見る機会を設けました。

各研修生はこれらの知識や経験を各国に持ち帰って、防災行政のリーダーとして自国の防災体制の強化のために活躍することが期待されます。

当センターでは、今後ともこのような人材育成プログラムを通じて、国際防災協力に貢献してまいります。今回の研修の実施にあたり、訪問・研修を受け入れていただいた関係諸機関の方々に厚くお礼申

上げますとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、この件につきましては、寺西主任研究員（teranishi@adrc.or.jp）までお願いいたします。

➤ ADRC 新任客員研究員レポート □ ロス・ソーバン研究員（カンボジア）

カンボジアは、国土の85%以上がメコン川の下流域に位置する地理的条件から、モンスーンの雨による洪水被害を受けやすい国となっています。大洪水の発生により、高潮がダムを押し流し、農作物に壊滅的な損害を与え、家屋や社会的インフラ基盤に深刻な影響を与えます。1994年、1996年、1999年に発生した洪水、そして単独で死者347名、直接経済損失1億5,700万米ドルを引き起こした2000年の大洪水は、人々の生命や生活に甚大な被害をもたらしただけでなく、カンボジアの開発プロセスを阻害し、貧困問題の悪化をも引き起こす事態となりました。



洪水の度重なる発生を受けて、カンボジア政府では、1995年、閣僚評議会下に位置する省庁間機関として、国家災害対策委員会（NCDM、議長：首相）を設立し、政府に対して災害対応に必要なアドバイス、調整、普及、提案を行っています。

私は、2002年6月よりカンボジア国家災害対策委員会、防災・法律担当顧問として勤務していましたが、この2005年1月からADRCの客員研究員として赴任し、2005年7月まで滞在することとなりました。

起伏の激しい地形を有する日本は、深刻な災害国の一つであるといえ、台風、豪雨、洪水、地滑りといった様々な災害に度々見舞われています。その一方で、このような災害経験を生かすことにより、日本は、優れた組織を構築し、先端技術を数多くの防災活動の中に上手に適用しています。そして、防災先進国として世界でも中心的な役割を担っており、多くの人々が日本の防災を学び、研究を行っています。

私もそのうちの一人として、NCDMが必要としている政策レベルでの防災、とりわけ日本の災害対策基本法がカンボジアでまだ整備されていないことから、日本滞在期間中は、関連法や政策面の切り口から日本の防災の枠組みについて研究を進めていきたいと考えています。私はまた、カンボジアと日本の間の協力関係を一層促進し、今後のNCDMとカンボジアの一助となる具体的な知見を得て、帰国したいと思っております。

If you have comments or requests for this Newsletter, please write to ADRC at the address on the right.

Published by : Asian Disaster Reduction Center (ADRC)
Hitomiraikan 1-5-2-5F, WAKIHAMAKAIGAN-DORI, CHUO-KU, KOBE
651-0073, JAPAN E-mail: editor@adrc.or.jp Phone:+81-78-262-5540